

令和2年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 81	提案機関名 神奈川県漁業士会
要望問題名 県内沿岸部全域の磯焼け状況把握と今後の対策	
<b>要望問題の内容</b> 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等）】 ・相模湾東部海域（三浦半島周辺）ではアイゴやガンガゼ等の食害を主因とした大規模な磯焼けが発生し、現在も藻場の回復に努めている。 ・最近では相模湾西部海域（小田原～真鶴）においてもアイゴによるカジメ藻場の食害が目立つ状況となっている。 ・このことから、現在の県内沿岸部における藻場磯焼け状況の把握を行い、県内漁業者および漁協に対しての情報提供を願いたい。 ・また、磯焼けとなった藻場の回復手段についての継続した研究、および大規模な磯焼けに発展するまでに行うべき対策についての研究を要望する。	
解決希望年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内    ③4～5年以内    ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター    ②畜産技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ③水産技術センター    ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	水産技術センター	担当部所	栽培推進部、相模湾試験場
対応区分	①実施 <input checked="" type="checkbox"/> ②実施中    ③継続検討    ④実施済    ⑤調査指導対応    ⑥現地対応    ⑦実施不可		
<b>試験研究課題名</b> 磯焼け緊急再生支援事業、漁場環境保全調査			
<b>対応の内容等</b> 水産技術センターでは、沿岸漁場環境の現状把握の一環として衛星画像の解析や漁業者への聴取り調査などにより、相模湾東部海域の藻場の状況を把握して藻場図面（藻場マップ）を作成する調査研究の他、藻場の状況を把握するためドローン、水中カメラ等による藻場調査方法の検討を水産工学研究所等と進めております。これらの調査方法も活用し、相模湾西部海域の藻場の状況を調査し漁業者へ情報提供します。今後、相模湾全体の現状把握による藻場図面（藻場マップ）の作成も検討してまいります また、磯焼け対策としては、アイゴ・ウニ等による食害の防止やその軽減が重要です。水産技術センターでも、現在、聴き取りや野帳の記入依頼によるアイゴの来遊状況の把握などの実態調査や刺網による駆除の指導、継続的なウニ類の駆除による藻場の回復状況を検証する研究に取り組んでいます。 今後も磯焼けの原因となる植食性生物の駆除方法や藻場回復の手法について、相模湾に適した方法を検討し、普及指導担当と連携して、磯焼け対策に取り組む漁業者を支援してまいります。			
解決予定年限	①1年以内    ②2～3年以内    ③4～5年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ④5～10年以内		
備考			